

中部E S D拠点運営委員会（第14回）議事メモ

日 時 平成21年1月14日（水）18時30分～20時30分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（609号室）

出席者 竹内委員長、千頭副委員長、寺井、羽後、新海、竹峰（高山委員の代理）、武者小路、黒岩の各委員

オブザーバー 村瀬

事務局 岡本、永田

議 事

1. 今後の活動について

羽後委員から、第2回中部E S D拠点フォーラム（2008年11月29日）におけるワークショップでの議論のまとめ（第2回中部E S D拠点総会（2008年11月28日）で中部E S D拠点協議会から示された「今後の活動方針」に関する議論）について説明があった。総会で示された「今後の活動方針」と第2回中部E S D拠点フォーラムでの議論のまとめは、以下のとおりである。

【今後の活動方針】（詳細は、中部E S D拠点運営委員会（第13回）議事メモ参照）

- I. 「伊勢・三河湾流域圏プロジェクト」の実施（フラッグシップ・プロジェクト）
- II. 「伊勢湾再生行動計画」のモニタリングと連携事業
- III. 生物多様性COP10への貢献事業
- IV. 伊勢・三河湾流域圏マイナス80計画

【拠点フォーラムでの議論のまとめ】

- (1) 庄内川プロジェクト、COP10など中部E S D拠点（運営委員会）の4つの今後の活動方針とそれぞれのプロジェクトの進め方について話し合いを続ける。
- (2) 作業分担など4つのプロジェクトについて新たにワーキングチームをつくるか、既にある研究グループ（高山委員）、勉強会（中部E S D推進会議）などを中心に作業を進める。
- (3) COP10に向けて生物多様性条約の前文を作成し提案する。
- (4) みんなの共通認識を深めるために、1月14日にまず地球憲章について学ぶ（例えば、E S D的活動のグッドプラクティスの表彰の基準づくりに地球憲章を活用する。）。

以上の「今後の活動方針」と「拠点フォーラムでの議論のまとめ」を基に、各活動方針に関して以下のような意見交換を行った。それらを踏まえ、次回の運営委員会までに、羽後委員（伊勢・三河湾流域圏プロジェクト）、竹内委員長（地球憲章の活用に関して）、高山委員（「伊勢湾再生行動計画」のモニタリングと連携事業）、岡本事務局員（生物多様性COP10への貢献事業）がアクションプラン等を作成することとした。

◎ 伊勢・三河湾流域圏プロジェクトに関して

- ・ 1月25日開催予定の第2回伊勢・三河湾フォーラムが活動事例の集大成になる。フォーラムでの活動紹介や議論内容を中部ESD拠点協議会としてのデータベースにしたい。勉強会みたいなこともやりたいが、中部ESD推進会議でも地球憲章を勉強させていただきたい。（羽後委員）
- ・ モリコロ基金が採用された場合と採用されなかった場合の両方を考慮してアクションプランを作成する必要がある。（竹内委員長）
- ・ 中部ESD推進会議で伊勢・三河湾流域圏プロジェクトと絡めて勉強会をやっている。これを今後中部ESD拠点運営委員会との協働というかたちにするのか、もしくは運営委員会に報告するというかたちにするのか、考える必要がある（羽後委員）。
- ・ 伊勢・三河湾フォーラムだけがフラッグシッププロジェクトではないが、フラッグシッププロジェクトの中で、拠点の目標全体にかかわる一番重要なフラッグシッププロジェクトであることだけははっきりさせる必要がある（武者小路委員）
- ・ 次回の運営委員会までに羽後委員に伊勢・三河湾フォーラムの報告とアクションプランの案を出していただきたい。（竹内委員長）

◎ 地球憲章の活用に関して

- ・ 地球憲章の普及・共有方法、教育への活用法、中部ESD拠点として地球憲章の価値等を実現させようとしている団体をいかに表彰していくか、を考える必要がある。（竹内委員長）
- ・ 中部ESD拠点として地球憲章をどうやって活用していくか、竹内委員長が企画案を作る。（竹内委員長）

◎ 「伊勢湾再生行動計画」のモニタリングと連携事業

- ・ 伊勢湾再生行動計画モニタリングは高山委員の方で既に動いているプロジェクトなので、高山委員の方から拠点がどのように関わりうるか等のアクションプランを次回までに提案していただきたい。（竹内委員長）

◎ 生物多様性COP10への貢献事業

武者小路委員から、COP10への中部ESD拠点としての貢献案の提案があった。案は、2010年のCOP10・国家間会議に向けた市民提案書作成のための、インターネットを用いた国内外のNPO・NGO等の団体との連絡・対話活動の立ち上げ・マネジメントに関する提案である。この案に関して、以下のような意見交換を行った。

【体制】

【コア組織】

- ・ 中部ESD拠点（インドのコダグ拠点の協力を得る。）（武者小路案）

【オブザーバー】

- ・ 国連大学、生物多様性条約国連事務局（武者小路案）

【メーリングリストの参加者】

- ・ RCEネットワーク、カウントダウン2010の会員（まずボンCOP9参加者に依頼）、洞爺湖サミット時の市民会議に参加した日本及び諸外国の参加者（JANICと協働して参加依頼）、生物多様性条約市民ネットワーク（2009年1月25日発足）、生物多様性フォーラム、その他のNPO・NGO、個人（武者小路案）

【メーリングリスト委員会・事務局・WEBマスター】

- ・ WEBマスターに対して、（メーリングリスト参加者の）対話の方向性の誘導や、テーマが派生して出てくるにしたがってどういう新しいサブグループをつくるか、という判断を与えるメーリングリスト委員会（中部ESD拠点運営委員会と生物多様性条約市民ネットワークが協力）を立ち上げる。（武者小路案）
- ・ 事務局的なことは誰がするのか、等をつめる必要がある。（竹内委員長）
- ・ 古澤事務局員（中部ESD拠点事務局）をWEBマスターに。（少なくともRCE間のネットワーク構築段階まで）を。（武者小路委員）
- ・ 国際的なネットワークの担当の事務局を作って誰かがやらないとまずい。もし今の中部ESD拠点事務局がパンクしているのなら、中部ESD拠点推進会議の中で英語が得意な方に事務局のメンバーに加わって国際担当事務局になっていただくという手はある。（羽後委員）
- ・ 古澤事務局員（+アルバイト）を中心とした事務局を組むのはどうか。やることはまずRCEの国際ネットワークを作る。（竹内委員長）
- ・ テーマ毎に事務局機能を分けて各RCEに担当させることはできる。（羽後委員）
- ・ EPO中部としても古澤事務局員（事務局・WEBマスターを担うなら）の支援を積極的に行っていく。（新海委員）

【扱うテーマ】

- ・ 武者小路委員の原案は、①生息域内問題（水循環、森等）、②生息域外問題（海洋、森林、遺伝資源）、③全般的課題（生命と文化の多様性）の3つのテーマで分けるとしている。加えて、ワシントン条約関連とラムサール条約関連等のテーマで分けたらどうか。（武者小路委員）
- ・ ただし最初からきっちりとしたテーマを設定するのではなく、議論が可能なテーマから設定していく。（武者小路委員）
- ・ 全体は全体で一つのメーリングリストを作っておき、一方でMIXIのような「この指とまれ」形式で特定のテーマについて議論したい人を募り、その問題についてはその人中心にディスカッションのMLのようなものをつくっていく、そしてまた細分化されたテーマが派生していくというイメージ。そしてその後出てきたものを全部文章にしてまとめるというイメージ。（千頭副委員長）

- ・ 生息域内、生息域外等で森、海等に分けているが分け方としてまずいと思う。日本がどれだけ資源を外国に依存しているか、その結果どれだけ外国で生物多様性が破壊されているか、という問題がある。だから衣・食・住・文化等の関係から分けていくのはどうか。(寺井委員)

【各団体とのネットワークを構築する手順】

- ・ まずRCEのネットワークに呼びかけて、それに加え生物多様性条約市民ネットワーク等各NPO・NGOとも連絡をとってメーリングリストを構築する。(武者小路委員)
- ・ 参加団体・参加者は初めから固定化するのではなく、徐々に自然に広がっていくように自己組織系で膨らませていく。(武者小路委員)
- ・ どのように進めていくかは今年5月までに運営委員会だけでなく、インドのゴダグ拠点とも相談が必要(武者小路委員)。
- ・ まずRCEのネットワークが第一では。(竹内委員長)
- ・ 中部ESD拠点としては初期段階では英語でインド等のアジアとのネットワーク構築に重点をおけばいいのでは？(羽後委員)
- ・ 日本の中での議論(例えば、伊勢三河湾再生計画)を煮詰めてからやらなければだめ。(武者小路委員)
- ・ 準備段階のネットワーク構築は英語で、その後に英語ができてもできなくても参加できる仕組みを作る。(武者小路委員)
- ・ RCE以外のネットワークをどうするか、ということになると、入れるか入れないかの問題が出てくる。(武者小路委員)

【アウトプット案】

- ・ 最終的にCOP10・国家間会議への市民提案書として、2010年9月を目処にまとめる。(武者小路委員)
- ・ 市民提案書の内容は、生物多様性条約の前文の作成に関する事項を国家間会議の直前に開かれるNGOフォーラムの議題にすることを促したり、前文の内容そのものへの提案につながるものに。(武者小路委員)
- ・ 市民提案は統一案でなくてもよい。(武者小路委員)
- ・ 後になってくるとどういう立場でまとめるか、という問題は出てくる。(武者小路委員)

【スケジュール】

- ・ ~2009年5月(RCEモンテリオール会議)・・・立ち上げ期間(武者小路案)
- ・ 2009年5月~2009年10月・・・活動開始、始動期間(武者小路案)
- ・ 2009年10月~2010年5月・・・本運転活動期間(武者小路案)
- ・ 2010年5月~9月・・・対話総括、「市民提案書」草案の文章化期間(武者小路案)
- ・ 2010年10月・・・COP10・NGOフォーラム、国家間会議

【その他】

- ・ 中部ESD拠点協議会としてはRCE間の連絡はとるが、既存のCOP10に向けた市民ネットワークの議論に、われわれがコミットメントするのではないということははっきりしなければいけない。(千頭副委員長)
- ・ 武者小路案の仕組みをもう一回図にして運営委員会の中で共有しないといけない。どういう仕組みでやるのかを明確にしないと、他のNPO・NGOを引き込むことはできない(新海委員)

◎ 伊勢・三河湾流域圏マイナス80計画

- ・ 各種団体に研究費を申請し、研究費が獲得できれば進める。(竹内委員長)

2. ロゴマークの使用について

岡本事務局員より、ロゴマークの特許の出願を12月に行い登録完了までに約8ヶ月かかる旨、またロゴマーク使用時の日本語バージョン、英語バージョン、白黒反転バージョン等を高北ロゴマーク審査委員長の指導の基に作成した旨、報告があった。さらに、協議会参加団体がロゴマークの使用を行う時にどの場面まで認めるかについて意見交換が行われ、意見交換の内容を基にロゴマークの使用規定を作成することとした。

3. 協議会加盟団体の承認について

「山楽路プロジェクト」から、協議会加盟の依頼があり、これを承認した。

4. その他

1) 「世界平和アピール七人委員会」からの支援依頼について

「世界平和アピール七人委員会」から、七人委員会の名古屋開催(2009年11月予定)の後援名義やサイドイベント開催等への幅広い支援の依頼があり、後援名義に関して承認した。幅広い支援に関しては基本的に承認する方向とし、詳細については今後詰めることとした。

2) 中部ESD拠点協議会HPについて

黒岩委員から、古澤事務局員、村瀬氏、前田氏の4人で中部ESD拠点協議会HPを再検討し、コンテンツ等の提案をしてみたいとの意思表示があった。

3) 次回運営委員会について

次回運営委員会を、「今後の活動方針」のアクションプランを作成することを中心に、2月19日(木)17時から、中部大学名古屋キャンパスで開催することとした。

以上